

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【河合小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。反復や振り返りの時間が十分に確保できていない。	⇒ 「書き込み式ドリル」や「ドリルパーク」や「スタディサプリ」を活用し、基本的な計算等の反復・習熟に取り組む時間を設定する【週2回の朝学習で実施】。その際、児童が自ら学習履歴を確認し、それを生かし、個別に学習計画を立てる時間を設定する【月に1・2度の自習学習タイムで実施】。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を教職員全体で共有する【学期に1度】。
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。 児童が自己表現する過程を教師が十分に評価できていない。	⇒ 評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りを充実させる【毎時間】。 ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定を行い、解決の見通しをもたせた上で、児童が自力解決する場面の設定を行う【毎時間】。

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や算数の「図形の角の大きさ」や理科の「電流がつくる磁力」の平均正答率において、全国平均を上回った。 国語の「情報の扱い方に関する事項」や算数の「数と計算・図形」や理科の「エネルギーを柱とする領域」の項目で課題がみられた。R7全国学力・学習状況調査の児童質問「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」や「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる行動を行っているか」、「自分に合った教え方、教材、学習時間であったか」に対する肯定的な回答の割合がとて大きい。今後も児童主体の個別最適な学びを進めることができるよう、教職員の研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語の「話すこと」の算数の「グラフの項目」や理科の「電気の働き・発芽」の平均正答率において、全国平均を上回った。国語の「読むこと」や算数の「測定・変化と関係・データの活用」や理科の「生命・地球を柱とする領域」の項目で課題がみられた。R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫している」や「次の学習や実生活に結び付けている」、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器の活用」に対する肯定的な回答の割合は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、ICTを活用した振り返りを充実させ、さらにその振り返りを次の学習に生かしていく。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

③分析共有(児童生徒の実態把握)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	
	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用を通して、一人ひとりが自分の課題に合った学習に取り組む時間を設定することができている。 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・しゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を教職員全体で共有することができている。
思考・判断・表現	B	評価規準を児童に示すことは概ねできているが、学校全体での活用という点では、また課題がある。 ICTを効果的に活用した授業を実践することができている。 魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面を設定する取組は学校として、まだ不十分である。今後の授業づくりの柱として研修に取り組んでいく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)